



日本科学者会議 (JSA) 滋賀支部
NEWS LETTER

2020年10月8日発行 第60号
事務局長 水原 渉
TEL/FAX 0749-47-5169 (共通)
go-ma-me@hi3.enjoy.ne.jp

滋賀支部では2011年3月の福島第1原発事故後の10月に、岐阜環境医学研究所所長(元岐阜大医学部助教授)の松井英介さんによる放射性物質の内部被曝の危険性の講演学習会を開催し、若いお母さんたちが熱心に質問されました。その松井さんが8月に逝去され、亡くなる寸前に次のメッセージを残されました。

核のない未来を願って

岐阜支部 松井英介

親愛なる友だち、仲間の皆さんへ

コロナウィルスの感染拡大により、世界中が大きな試練に立たされています。日常の行き来もままならなくなっています。みなさまはどうお過ごしでしょうか。

2011年3月11日フクシマ大惨事から、間もなく10年が経過しようとしています。この大惨事をきっかけに、私はみなさんと知り合い、たくさんのことを教えられてきました。とくにスイス・バーゼル研究所のDr.Markus Zehring、Dr.med.Martin Walterらの支援を受け、乳歯中ストロンチウム90の測定を日本で始めることができたことは、何物にも代えがたい大きな歩みの第一歩です。感謝しています。

しかしいま、私個人はストロンチウム90の影響と思われる病を抱え、闘病中です。その病は、骨髄異形成症候群(MDS myelodysplastic syndrome)です。

この病は、広島・長崎の原爆数年後から被ばく者に見られるようになり増加していましたが、日本で人類が経験した最大、最悪の3.11原発事故以降、関東圏を中心に日本各地でMDSの患者さんの増加が指摘されています。進行すれば白血病への移行もありうる難病「MDS」。米国で開発された「ビダーザ」は、MDS治療に大きな効果を発揮する、画期的な新薬として注目され、日本新薬では、2011年3月に「ビダーザ」を発売しました。私は2018年1月から「ビダーザ」を注射し、治療を開始しました。MDSは、その後約2.5年比較的良好的な効果が期待できましたが、現在はもはや効

果なく、赤血球と血小板を週一回輸血し、血液の状態を整えているところです。最近は免疫力の衰えから高熱が出るなど油断を許さない状態です。

私はMDSや白血病でゆっくり人を殺す人たちを、忘れてはならないし、免罪してはいけないと、自らに言い聞かせています。

そこでお願いです。私たち「はは測定所」では、バーゼル研究所で研修を受けた仲間を中心に、日々乳歯中ストロンチウム90の測定を進めております。

今後ぜひこの結果を、日本だけのものとせず、スイスをはじめ多くの国と共有し、研究者たちの叡智と力で解析し、世界の未来世代のために生かしていただきたいと望みます。

(加えて遠くない将来、私が命を終えたときは、私の歯と骨も、その取り組みに生かしていただけたら嬉しく思う所存です。)

2020年8月15日

【松井先生との思い出】 代表幹事 畑 明郎

松井先生とは、2004年に発覚した岐阜市椿洞の産廃不法投棄事件で2005年に現地調査と現地学習会へ呼ばれた時に知り合って以来、15年の付き合いでした。

『日本の科学者』2008年7月号特集「産業廃棄物不法投棄—東海地方の実例を中心に」に先生が「岐阜市椿洞への産廃不法投棄」を書かれ、私が「東海地方の産廃不法投棄事件への政策提言」を書きました。

2006年以降、問題になった築地市場の豊洲移転問題では、ベンゼン、シアン、水銀などのガス状物質の人体影響について呼吸器病学が専門の先生に2007年の環境学会シンポジウム in 築地・国立がんセンターで講演して頂きました。また『福島原発事故の放射能汚染』(世界思想社、2012年)第5章「東電原発大惨事による低線量内部被曝」を執筆して頂きました。2015年に先生らが設立された原発事故で放出されたストロンチウム90の影響を調べる「乳歯保存ネットワーク」に私も参加し、孫たちの乳歯を提供しました。2018

年に設立された乳歯を分析する「はは測定所」と「俵はは」にも出資しました。

最後に松井先生とお会いしたのは、昨年5月に岐阜市で開催された「川崎陽子さん講演会・はは測定所見学」でしたが、大変やつれたご様子でした。先生は放射能で汚染された福島県に何度も現地調査に入れ、ストロンチウム90に被ばくして病気になりましたが、壮絶な生きざまに敬意を表する次第です。どうか安らかに眠り下さい。 合掌

広島原爆記念集会でのスピーチ

(1992年 コロラドで)

個人会員分会 小島 彬

私は滋賀県立大の前身の県立短大で、文部省の在外研修で1992年6月初旬から9月初旬までアメリカのコロラド州フォートコリンズにあるコロラド州立大(CSU)に共同研究の滞在をしました。学長からできれば英会話の練習も行なうように言われていたので、大学が毎週金曜日の夕方に開催するFriday Afternoon Club (FAC)に参加しました。CSUはcommunity collegeで大学周辺の住民らがFACに参加し、potluck party(参加者が何か食材を持ち寄るparty)を、金曜日夕方に外国人留学生のために、ゲームや談話を毎週休まず2時間開催していました。また大学の傍の歴史学のGriswold教授宅で、ワッフルを焼いてリンゴの木の下のベンチで飲食しながら2時間歓談するSunday Breakfast Partyが、10年以上にわたって欠かさず開催されおり、それにも参加しました。私は海外研修が決まってから、通勤の車中で1,000時間のヒヤリングマラソンのテープを聞いていましたが、700時間で出かけることになり、最初の1か月は早口の市民の話が全く聞き取れず、やたら小鳥のさえずりが耳に入り、小鳥は万国共通言語で羨ましいと真剣に思いました(正にI wish I were a bird.)が、1月経つと急に英語が耳に入るようになり、正に唯物弁証法の「量から質への転化」を実感しました。後に県大での研究成果が固体物理学の世界的権威に認められ、特にEUでの国際会議に何度も招待され特別講演を行いました。このpartyでの経験が様々に役立ちました。

6月4日のFACである常連が、「明日市内のOld Town

で広島原爆記念集会があるが、出ないか。」と言ってきました。このOld Townは列車の線路が道路に敷かれ、開拓時代の雰囲気が残る素晴らしい街ですが、毎年欠かさず記念集会が行われていました。恐らくそれまで日本人は参加を断ったのだと思いますが、出ると返事をしたら彼は驚きました。そこでまたスピーチをしないかと畳みかけてきたので、行くと返事をしたらかなり驚いた様子でした。スピーチで私は、妻の父が原爆投下直後の広島に入り、尋常でない事態を見てすぐに逃げたけれど、ある一定の年数被爆の後遺症で苦しめたことを述べ、日本では周りにこうした人々が少なからずいて、その悲惨な状況をよく国民は知っており、日本政府は先頭に立って核兵器の廃絶を訴えるべきであると述べました。ローカル新聞の記者が私のスピーチの寸前に帰ったために、仲間の1人が新聞社に、Prof. Kojimaがこんな素晴らしい演説をしたという詳細な内容の投稿をして掲載されました。その後はpartyのメンバーが私を見る目が変わりました。またスピーチを終えるとある日本の青年が掛けより、私の手を握り涙を流しながら、よく言ってくださったと感謝を述べました。しかし彼は日本人の顔をしていませんが全く日本語が話せず、ハワイ生まれの日系3世でした。よくdebateで核兵器を無くすべきだと主張するが、負けた相手は必ず「真珠湾攻撃を忘れるな」と捨て台詞を吐き悔しい思いをしてきた。しかしこうして日本の先生が日本政府の責任をきちんと述べていただき、非常に嬉しいと言いました。確かにアメリカの若者と話をしても、銃の所持は自由の象徴だなどと単純な発言をしたりして、核兵器についても深く考えていなかったようですが、最近のNHKのアンケート調査では、7割の若者が核兵器は必要ないと応えており、28年間で状況が好転した主要な要因が何故なのかを是非知りたいと思います。

その後2017年に国連では「核兵器禁止条約」が採択され、50か国の批准で発効することになりました。現時点で残り4か国になり10月十にも50か国に達するという歴史的な段階を迎えていて、28年前とは隔世の感があります。唯一の戦争被爆国の日本が条約を承認する意義は非常に大きく、そのような政府を次の総選挙では市民と野党で実現させる必要があります。